

## セルリーのキタネコブセンチュウ(新寄主)

令和7年5月及び6月に胆振管内の促成作型のセルリーハウスにおいて、地上部の葉の黄化、生育抑制・矮化症状が確認された。発病株の根部に細根、直根を問わず直径数 mm の大小様々なこぶが形成され、こぶの形成が多いと地上部の症状も顕著になった。また、根のこぶからは細根が分岐していた。当該ハウスの土壌からはベールマン法によってネコブセンチュウ類が多数検出された。また、セルリーのこぶの内部にはセンチュウ類の雌成虫が確認され、ペレニアルパターンからキタネコブセンチュウ *Meloidogyne hapla* Chitwood と同定された。

(中央農試・胆振農業改良普及センター)



キタネコブセンチュウによるセルリー根の被害（中央農試 中島原図）